

## キヤノン株式会社

### 2026年 第1四半期 決算説明会【QAまとめ】

- Q1. 第1四半期の営業利益について、想定と異なり下振れた部分を教えてほしい。**
- A1.** 主にプリンティングで、プロダクトミックスや顧客ミックスの影響により計画と比べて下振れた。地域別では欧米が計画を下回っており、欧州は中東情勢により売上が影響を受けた。
- Q2. 第1四半期の減益要因の一つは低粗利率製品の割合増加とのことだが、内容と第2四半期以降の改善見通しについて教えてほしい。**
- A2.** プリンティングにおいて、利益率の高い直接販売より間接販売の比率が高かったこと、イメージングはカメラにおいてエントリーモデルの販売割合が増えたこと、インダストリアルでは低価格の製品が大口顧客向けに集中したことなどにより、利益率が低下した。第2四半期以降、プリンティングについては米州を中心に直接販売の販売力強化を図り、インダストリアルについては第1四半期に集中した大口顧客向けの低価格製品の割合が年間では解消され、平均単価が上がっていくと想定している。
- Q3. 前回見通しと比較して、メモリのコストアップ影響が 503 億円増えた要因を教えてください。**
- A3.** 1月の前回決算発表時点では全ての影響を把握しきれていなかった。前年末時点の情報をもとに価格予測を行っていたが、今年に入って想定以上に急激な価格上昇が起こっている。また、数量の確保を優先し、スポット価格での調達も含めてある程度の価格上昇を容認したことも要因である。スポット価格は契約価格に対して、2倍から3倍程度となっている。
- Q4. メモリのコストアップ影響額には前倒しで購入したことによるコスト増や供給不足による販売数量減も織り込んでいるのか。また、コストアップが PL に反映されるのはどのタイミングか。**
- A4.** 今回の計画には、今年必要な量のメモリについての価格上昇影響のみ織り込んでおり、供給不足による販売数量の減少は見込んでいない。コストアップの PL への反映は製品が販売された時点である。

## キヤノン株式会社

### 2026年 第1四半期 決算説明会【QAまとめ】

- Q5.** メモリのコストアップ影響について、セグメント別の影響金額を教えてください。
- A5.** 前回計画に対する503億円の悪化のうち、プリンティングが約200億円、イメージングのカメラが約200億円、ネットワークカメラが約100億円となっている。
- Q6.** メモリのコストアップに対して、値上げや内部努力による利益改善を計画に織り込んでいるのか。
- A6.** 503億円のさらなるコストアップに対して、半分程度を値上げやコスト・経費削減で利益改善していく計画である。ただ、どのように行うかは現在検討中であるため、値上げによる売上増ではなく、コストと経費の減少で織り込んでいる。
- Q7.** メモリのコストアップ影響額について、前回決算では60～70億円と説明していたが、今回の決算では、前回計画を131億円としているのはなぜか。
- A7.** 前回の決算では、質疑応答で主にDRAMの影響として60～70億円と説明したが、NANDについては計画には織り込まれていたものの、説明に含められていなかったため今回修正した。
- Q8.** メモリのコストアップ影響のうち、NANDのコストアップ影響はどの程度か。また4月に入り、NANDの価格がさらに上昇しているが、さらなる大幅コストアップの可能性はあるのか。
- A8.** 今回の計画には約100億円の影響が織り込まれている。今年の必要量をほぼ確保できており、現時点では織り込まれている以上の大幅なコスト悪化は想定していない。
- Q9.** 来期のメモリ調達についてはどう見通しているのか。
- A9.** 今年必要な量のメモリについては確保できているが、来期については、まだ見通せていない。価格については、少なくとも来年上半年まではこれ以上高騰することはないものの、下がることもないと認識している。メモリ製造メーカーの増産体制が整ってくる来年下半年以降は、徐々に価格が下がってくるだろうと想定している。
- Q10.** 年間見通しにおける中東影響▲54億円の内容を教えてください。
- A10.** 中東向けの売上減少に伴う粗利の減少である。

## キヤノン株式会社

### 2026年 第1四半期 決算説明会【QAまとめ】

**Q11. 輸送費や原材料費高騰を織り込んでいないとのことだが、現在の状況が続いた場合にどの程度のダウンサイドリスクがあるのか。**

**A11.** 現時点では、いくつかのサプライヤーから値上げ要請がきており交渉中であるが、限定的である。当社としてもコストアップを回避するための代替調達ルート確保や、代替品への切り替えなどさまざまな対応を検討している。最終的にどれほどの影響となるかは中東情勢次第で、上期中に解消されれば影響は限定的となり内部努力で吸収できるが、年末まで続く場合は内部努力だけでは全てをカバーしきれないだろう。実際にコストが大幅に上昇すれば、製品価格への転嫁も検討していく。

**Q12. 東南アジアに多くの生産拠点を構えているが、中東情勢による原油由来のさまざまな原材料の供給リスクの影響を受けるのか。**

**A12.** 東南アジアの生産拠点で供給上の問題があるということは現時点では聞いていない。東南アジアの拠点における原油由来の調達資材の割合は日本より低い。

**Q13. 事業構造改革について、部材調達コストが今後さらに上昇する可能性がある中で今後計画を変える可能性はあるか。**

**A13.** 販売・生産の構造改革についてはすでに具体的な計画が定まっており、計画通りに進めていく。メディカル事業革新については一段と加速させていき、効果も現時点で計画している年間100億円を超える利益改善を実現していきたいと考えている。

**Q14. 販売構造改革について、前回計画より費用・効果ともに減少している要因は何か。**

**A14.** 欧州で労働組合との交渉を進めているが、交渉の一部が想定より長引き、来期に持ち越しとなったことが要因である。計画自体が大きく縮小しているわけではなく、労働組合との交渉の進捗状況に基づき年内の見通しを随時見直している。

**Q15. 経営環境の悪化により構造改革の実施が難しくなるリスクはあるか。**

**A15.** 経営環境が悪化したことで構造改革をやめる、後ろ倒しにすることは全く想定していない。計画から遅れているのは、労働組合との交渉が長引いていることに起因しており、計画自体は変わっていない。

## キヤノン株式会社

### 2026年 第1四半期 決算説明会【QAまとめ】

**Q16. 第1四半期のオフィス複合機は、為替影響を除くと売上が前年から減少しているが、第2四半期以降どのように挽回していくのか。**

**A16.** 第1四半期は、米国関税影響による投資の先送りが継続したことで本体売上は前年から減少したが、稼働している製品のプリント需要は変わっておらず、消耗品・サービスの売上は増加している。これを踏まえ、現在は投資が先送りされているが、下期にかけては機器の更新が行われていくと想定している。

**Q17. 第1四半期のレーザープリンター売上が前年から大きく減少した理由は何か。**

**A17.** 昨年の第1四半期は、米国の関税率が引き上げ前で販売の前倒しがあったため、今年は減収となった。一方で、市況低迷により出荷調整を行っていた昨年と比較すると下期は前年からの減少幅が小さくなる見通しである。

**Q18. カメラの年間販売台数見通しが295万台から290万台に引き下げられているのはなぜか。**

**A18.** 昨年末の年末商戦以降、当社を含むカメラメーカーの販売が想定より振るわず、市中在庫が若干多くなっていることや、中東情勢の影響も受けて見通しを引き下げた。

**Q19. 半導体露光装置の販売台数見通しを上方修正している背景を教えてください。旺盛な需要に対して、生産面でどのように対応していくのか。**

**A19.** 前回計画から半導体露光装置の販売台数見通しは14台増えており、全てメモリ向けである。メモリ向けの受注は急増して年間の販売見通しに織り込んでいる以上の台数となっており、増産対応を進めて設置・検収を増やしていく。昨年7月に宇都宮で半導体露光装置の新工場の稼働を開始しており、高まる需要に十分対応できる生産体制が整っている。ボトルネックになっているのは部品調達の面であり、現在サプライヤーとの連携を強化し、解消に努めている。

**Q20. 後工程向けの半導体露光装置の販売台数割合は全体から見てどの程度か。昨年と比べて販売台数は増えていくのか。**

**A20.** 後工程向けの半導体露光装置の販売台数が全体に占める割合は35%程度となっている。台数は増えていくものの、昨年すでに大きく増えていたため、今年はそれほど大きく増加するとは見ていない。